

翻 訳

国際語エスペラント (Esperanto) の特徴と
エスペラントによる小論「生きものの共生と人間の共生」
の対訳

橋 本 義 郎*

**Features of the International Language Esperanto
and a Bilingual Edition of the Essay *The Coexistence
of Humans and Living Creatures* in Esperanto**

Yoshiro Hashimoto*

Abstract

This paper is composed of two parts. In the first part, the author briefly describes the origin and features of Esperanto. It is an international language officially published for the first time in 1887 by a young ophthalmologist, Ludwik Lazaro Zamenhof. The author also discusses the strong points and weak points of Esperanto as an internationally neutral language. In the second part, the author's essay *Vivaĵa Kunvivado Kaj Homeca Kunvivado* is presented both in Esperanto and Japanese. It was originally published in Esperanto. In the essay, he insists that there are two kinds of *coexistence: the coexistence of living creatures and the coexistence of humans*. Then *universal coexistence* is explained with examples.

キーワード

Esperanto, language, international, coexistence

対訳発表の主旨とエスペラントについての簡略な紹介

エスペラントで出版されている「MONATO」という名の国際総合雑誌（第42回年次コレクション、2021年4月号）に掲載された拙著論文「生きものの共生と人間の共生」（エスペラントで *Vivaĵa kunvivado kaj homeca kunvivado*）を、エスペラントと日本語の対訳形式で本紀要において発表させていただきます。MONATOは、日本語の暦上の12か月における月を意味します。ベルギー王国のアントワープで発行されている月刊誌で、現在、68か国に定期購読者を有し、43か国に契約特派員を配置していますⁱ。

* はしもと よしろう：大阪国際大学名誉教授〈2021.5.27受理〉

また Monato は同誌に掲載された記事を、商業目的でないかぎりにおいて、転載あるいは翻訳出版する自由を、出典を明記することを条件に認めています。

エスペラントは、ワルシャワ大学医学部を卒業して、眼科の若き開業医であったラザロ＝ルドビコ＝ザメンホフ（当時、28 歳）が 1887 年に発表した人工語です。エスペラントという名称は、希望する人（意識すれば「希望をいだく人」）を意味する一般名詞の *esperanto* を源としています。ザメンホフがエスペラントを公式に発表したときの文書の著者名（筆名）として「エスペラント（大文字を冠して *E* speranto）」を使ったことにちなんでつけられた言語としての *Esperanto* の名称です。[ザメンホフとエスペラント創造の背景については注ⁱⁱをご参照ください。]

筆者が知り得たかぎりでは、地球人が日常会話で使用している言語のなかでエスペラントが最も中立的な国際的・民際的言語とかがえられます。表音文字体系（アルファベット）としてローマ字形式の ABC を使っているのも、母語の基本表記がローマ字形式の ABC である人（フランス語・アングル語〈いわゆる英語〉・スウェーデン語などを母語とする人）とくらべてそうでない人（日本語・韓国語・中国語などを母語とする人）にとっては、表記法についての不利があります。そのほか、最初に造語された基本単語に、イタリア語、フランス語、ドイツ語などヨーロッパ系の言語の同義語に似た音のものが多く含まれていることなどもあり、ABC をアルファベットとするヨーロッパ系言語を母語とする人に有利な傾向がみられます。

しかし、日本語が母語である筆者にとっても、これまでに少しでも学んだことのある母語でない言語－アングル語・ドイツ語・韓国語・スウェーデン語など－とくらべた場合、エスペラントは圧倒的に学びやすく、使いやすい言語です。たとえば、スウェーデン語にはその文法規則では容易に説明しつくせないような単語の使い分け（名詞の性に対応する不定冠詞の *en* と *ett* の使い分け。対応する単数形名詞が「中性」か「両性」かによって使い分ける）があります。この分類の規準は自然習得的な感覚によるところが大きく、母語が日本語である私はそれを身につけることができいていません。エスペラントの場合は不定の単数形に冠詞は付けません。複数形はどんな場合も単数形に *j* を接尾させるかたちです。動詞についても文字表記の時制による不規則変化がありません。これに対して、スウェーデン語やアングル語には多数の不規則変化があり、それらを覚えて使いこなすのに苦労してきました。

筆者の知る自然言語のいずれとくらべても、エスペラントの文法はより規則的で簡潔です（その詳しい内容については、日本エスペラント協会のホームページなどでご確認ください）。

ここでは、とりあえず動詞の用法による語尾変化を例にとって、その例外のない規則性と簡潔性について簡略に説明してみます。表 1 をご覧ください。いずれの動詞も、その語尾を規則的に少し変えるだけで、すべての時制と仮定法ならびに命令法に対応させて使うことができます。スウェーデン語やアングル語に見られる不規則変化動詞はありません。

表 1 動詞の用法と語尾

用法	動詞の語尾	用例	日本語訳
不定形	- i	Mi volas paroli. (mi) (volas)	私は話したい。 (私は) (欲する、～したい)
現在形と 現在進行形	- as	Mi parolas.	私は話す。 私は話している。
過去形	- is	Mi parolis.	私は話した。
未来形	- os	Mi parolos.	私は話すでしょう。
仮定法	- us	Se vi ne parolus, mi parolus. (se) (vi) (ne parolus)	もしあなたが話さないのなら、私が話します。 (もし) (あなたが) (話さない) (ne)は否定される語句の直前におく否定の副詞。
命令法	- u	Parolu!	話しなさい。

また、ある概念をしめす単語の語幹に語尾を加えて単語をつくるやり方の規則にも例外がありません。その方式は図 1 の通りです。語幹に i をつけることで動詞の不定形をつくれます。同様に「o」や「a」や「e」を付けることで、合わせて四つの形の単語をつくることができます。

文字表記と発音との対応関係の規則性についても見ておきます。文字表記と音との対応はすべて 1 対 1 対応です。音読の仕方はローマ字の場合と大部分で共通しています。単語発音のアクセントは、つねに後ろから二つ目の音節にあります。たとえば tomato は日本語のトマトを意味し、「トマート」という具合にマを少し長く強めに発音します。同じ綴りの単語が文脈によってちがう音をしめすことはありません。それがアングル語だと同じ綴りで複数の時制に対応しつつ、時制によってことなる音で読まれる単語があります。たとえば「読む」の概念をしめす read という単語の表記は動詞現在形でも動詞過去形でも read です。しかしその発音の仕方は現在と過去でことなります。

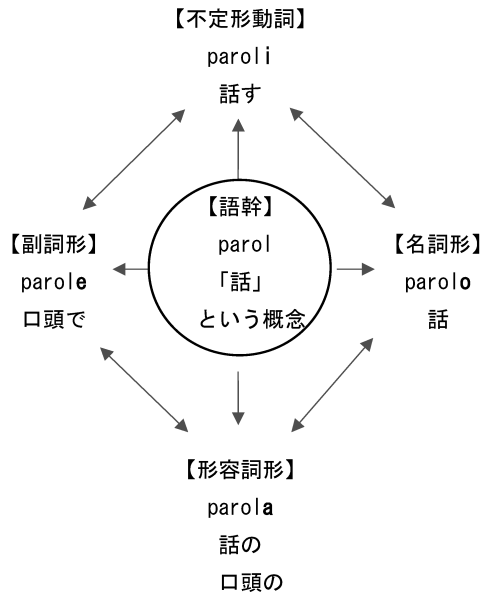


図1 語尾を変えて単語をつくる

以上に紹介した文法規則について例外がなく簡潔であるというエスペラントの特徴は、筆者にとって、他者（それぞれの母語とエスペラントを身につけている書き手）が書いたエスペラントの文章の内容についての共通理解のための助けとなり、母語の日本語とはことなる「よさ」とかんがえています。それが規則的で簡潔であるがゆえに、その文法規則と容易に照合しつつ、書き手と対話したりしながら、内容理解の正確さを高めることができるというのがその理由です。

こうした特徴をもつエスペラントの存在についてさまざまな人に少しでも知っていただきたいと願い、本対訳をまとめることにしました。母語のことなる話者間でのコミュニケーションをより中立・平等なものにすることは、さまざまな言語背景をもって地球上に暮らすすべての人が相互の多様性を理解・尊重して語り合い、共にかんがえ行動し、地球人として平等に共生する世界の理想に向かう実践（理想を体現する、「^{かい}隗より始めよ」の実践）に不可欠な要素だと筆者はかんがえます。本稿をより中立・平等な言語コミュニケーションをめざす実践における批判や考察の対象の一つにしていただければうれしいです。

なお、対訳とした文章は、さまざまな人や生きものが相互に対等・平等に共生する世界を理想としてめざす思想と行動についてのものです。

エスペラントの実際用例である以下の対訳を少しでもご覧になっていただけることを願い、希望します。中国の小説家・思想家でエスペラント支持者でもある魯迅は次のように書いています。

「希望とは、もともとあるものだともいえぬし、ないもんだともいえない。それは地

上の道のようなものである。もともと地上には、道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」 魯迅（訳：竹内好）『故郷』より

ⁱ Monato , 42a jarkolekto, aprilo 2021/04.

ⁱⁱ ザメンホフは当時ロシア領であったポーランドにユダヤ人の子として 1859 年に生まれた。彼が生まれた地はユダヤ人、ポーランド人、ロシア人、入植者のドイツ人など、言葉や宗教のちがう民族集団が混在するところで、そこでは民族間の反目といさかいが日常茶飯事であった。

そうした現実のなかで、「もっとお互いの理解と寛容があれば」と願ううちに、異なる民族を結ぶやさしい共通語をザメンホフは夢見るようになった。

そして、個々の人間は、まず人類の一員であるべきだと考え、その考え（思想）をホマラニスモ（「人類主義」）と名づけた。

ザメンホフは旧約聖書、アンデルセン童話集、ゴーゴリーの『検察官』などのエスペラント訳をのこした。

ザメンホフは 1917 年にドイツ軍占領下のワルシャワで心臓病で亡くなった。しかしホマラニスモの思想と彼の夢は、世界のさまざまなところ（たとえばこの紀要のなかに）生き続けている。[日本エスペラント協会『通い合う地球のことば 国際語エスペラント』日本エスペラント協会、2016 年、15 頁を参照して上の注を記した。]

第 2 部 対訳

対訳の対応関係について

エスペラントの原文とその訳文との対応はかならずしも単文ごとの 1 対 1 対応にはなっていません。一つの意味的まとまりをもつ一連の文を単位（段）にして対にしています。その対応関係を明示するために、対応関係にあるエスペラントと日本語の段のそれぞれの先頭文字の前に順番を付しました。

[原文 (エスペラント)]

Vivaĵa kunvivado kaj homeca kunvivado

①En la moderna japana socio oni uzas la vorton *kjōsei* (kunvivado) en la senco de iuspeca interrilatado inter vivaĵoj kaj/aŭ homoj, kiuj konekzistas en rekta aŭ nereкта interdependeco. Sed la vorto ne havas unuecan difinon. Iafoje la vorto *kunvivado* signifas, ke diversaj homoj kunaktivis aŭ kunloĝas egale, kaj alifoje ĝi signifas ekologian interdependon inter diversaj vivaĵoj.

②*Kunvivado* en kursivo celas montri mian propran koncepton de *kjōsei* aŭ *kunvivado*. Ĝi signifas la rilaton inter vivaĵoj kaj/aŭ homoj, kiuj vivas kunhavante la lokojn, kie ili vivas, loĝas, ludas, lernas kaj/aŭ laboras. Ekzemple, arbaro estas loko, kie vivaĵoj kaj homoj kunvivas. Natura maro estas loko, kie diversaj vivaĵoj kunvivas. Homa hejmo estas loko, kie la familianoj kunvivas. En internaciaj urboj, ekz. Parizo, diversaj popoloj kunvivas. Sur la terĝlobo estas diversaj lokoj grandaj kaj malgrandaj, kie vivaĵoj kaj/aŭ homoj kunvivas.

③La celo de ĉi tiu artikolo estas klarigi la du tipojn de kunvivado, kiujn mi nomas vivaĵa *kunvivado* kaj *homeca kunvivado*, kaj la interrilatadon inter ili, por ke diversaj homoj pli bone komprenu la kunvivadan rilaton, kunvivu respektante diversecon, forigu diskriminacion, kaj faru la mondon pli egaleca kaj bona por ĉiuj vivaĵoj kaj homoj.

④Mi klarigos la *vivaĵan kunvivadon* en la unua sekcio kaj la *homecan kunvivadon* en la dua. En la tria sekcio mi argumentos, ke ekzistas interrilito inter la du tipoj de kunvivado. Fine mi prezentos agadojn, kiuj integras la du tipojn de kunvivado kaj kontribuas por realigi la deziratan mondon.

1. *Vivaĵa kunvivado*

⑤Principe, ĉiuj vivaĵoj vivas en interdependaj rilatoj kun aliaj. Neniu vivaĵo povas vivi tute sola. Kaj ankaŭ homo ne povas vivi sola. Ekzemple, mi dependas de fiŝoj, ĉar mi manĝas fiŝojn. Same mi dependas de kokoj, porkoj, bovinoj, rizo, sojfaboj kaj tiel plu. Mi ne povas nutri min sen ili. Por manĝi ilin, mi mortigas ilin aŭ dependas de iu, kiu mortigas ilin. Mi manĝas iliajn vivojn. Tio estas unu el miaj fundamentaj kulpoj kiel homo, ke mi mortigas ilin aŭ faras, ke iu mortigu ilin por mia ekzistado. Mi bezonas kaj deziras kunvivi kun diversaj vivaĵoj ne homaj, sed samtempe mi mortigas per mia mano aŭ per la mano de alia multajn aliajn vivaĵojn. Dume estas vivaĵoj, kiuj prenas nutradon el homoj. Ekzemple, moskito pikas kaj suĉas mian sangon. Mi nomas ĉi tiun specon de interrilitado de vivaĵoj *vivaĵa kunvivado*.

〔日本語訳〕

生きものの共生と人間の共生

①現代の日本社会で「共生（きょうせい）」（エスペラントで kunvivado）という言葉が、人と人や（人を含む）さまざまな生きものがたがいに直接・間接に依存しあいながら共存していることを意味するものとして使われています。しかし、この言葉についての統一の定義はありません。人びとが共に平等に働き、暮らすことを意味することもあれば、さまざまな生物のあいだの生態学的な連鎖・依存関係をさす場合もあります。

②斜字体の共生は、私が独自に構想した共生（kunvivado）の概念をしめすためのものです。それはある場所をわかちあいながら、そこに生き、住み、遊び、学びあるいは働き暮らすさまざまな生きものや人間のあいだの関係を意味します。たとえば森は生きものと人間が共生する場所です。自然の海は、さまざまな生きものが共生する場所です。人の家には、人間の家族が住み、共生します。パリのような国際都市には、さまざまな民族の人びとが共生しています。地球上には生きものや人間がわかちあいながらそこで生きる、小さいものから大きいものまで、さまざまな共生の場所があります。

③この小論の目的は、生きものの共生および人間の共生と私が名づけた2種類の共生と、それらの相互関係を説明し、共生についての理解を深め、さまざまな人と多様性を尊重して共生し、差別をなくし、すべての生きものと人間にとってより平等で善い世界をめざす一助とすることです。

④第1節で生きものの共生について、ついで第2節で人間の共生について説明します。第3節では2種類の共生の相互関係について考察します。そして最終節で、この2つの共生を統合させ、より善い世界をめざす実践を紹介します。

1. 生きものの共生

⑤すべての生きものが基本的には相互依存関係にあります。完全に単独で生きる生きものはいません。人も一人では生きられない生きものです。たとえば私は魚を食べるので魚に依存しています。同様に、鶏、豚、牛、米、大豆などにも依存しています。私はそれらなしに自分自身を養うことができません。それらを食べるために、私はそれらを殺すか、誰かにそれらを殺してもらうかします。私はそれらの命を食べます。それは、私がそれらを殺したり、誰かに私のために殺させたりするという、人間としての私の根本的な罪の1つです。私は人間以外のさまざまな生きものと一緒に暮らす必要があり、生きたいと思っていますが、同時に自分の手や他の人の手で多くの人間以外の生きものを殺しています。その一方で、人間から栄養をとる生きものもいます。たとえば、蚊が私の血を吸います。私はこのような生きものの相互関係のなかで生きています。斜字体の生きものの共生でこのタイプの生きものの相互関係をしめしています。

⑥Mi diskriminacie distingas aliajn vivaĵojn disde homoj. Eĉ vegetaranoj ne povas nutri sin sen mortigi aŭ vundi iun vivaĵon. Ili manĝas vegetaĵojn, kiuj havas vivojn. Alivorte, interrilatoj inter individuaj homoj kaj ne-homaj vivaĵoj ne povas esti egalaj. Eble ni homoj povas malpliigi la malegalecon per protekto aŭ regajno de medioj kiel eble plej bonaj por homoj kaj aliaj vivaĵoj.

⑦Por tio ni, homoj, devas protekti aŭ krei mediojn, kie ĉiu specio de vivaĵoj almenaŭ povas daŭre ekzisti kun minimumaj doloroj. Ekzemple, ni devas ĉesigi poluadon aŭ detruadon de la maro, lagoj, riveroj, terenoj, arbaroj kaj aero. Interspecia egaleco estas esenco de la ideala *vivaĵ-kunviva* mondo, kiun mi imagas. Kompreneble militoj kaj arma produktado devas finiĝi por malpliigi la dolorojn de homoj kaj aliaj vivaĵoj.

⑧Mi nomas praktikadon, kiu celas idealan *vivaĵ-kunvivan* mondon, praktikadon de *vivaĵa kunvivado*.

2. *Homeca kunvivado*

⑨*Homeca kunvivado* estas interrilatado inter homoj. Ĝi estas unu speco de interrilatado inter vivaĵoj. Mi konsideras ĝin escepta speco de vivaĵa kunvivado. Ni povas vivi sen manĝi aŭ mortigi homojn. Kaj oni konsideras tion malmorala, ke homoj manĝas homojn en homaj socioj. Mi nomas ĉi tiun specon de interrilatado de homoj *homeca kunvivado*. Ĝi estas unu el diversaj specoj de kunvivado. Ekzemple, simioj kunvivas en grupoj. Ankaŭ rilato inter la simioj estas specia kunvivado. Estas eble diri same pri abeloj, formikoj, leonoj kaj tiel plu.

⑩Mi bezonas ne nur *vivaĵan kunvivadon*, sed ankaŭ *homecan kunvivadon*. Mi dependas de miaj filinoj. Mi ĝojas kunmanĝi kaj dialogi kun ili. Mi povas vivi kiel patro kaj ĝui gajan tempon kun ili, ĉar miaj filinoj rigardas min kiel la patron kaj sintenas kun mi sufiĉe egale. Ili dependis kaj dependas de mi almenaŭ iom. Ni, miaj filinoj kaj mi, interrilatas kaj interdependas, kaj faras *homecan kunvivadon* kiel homoj.

⑪Simile ekzistas interdependeco inter mi kaj diversaj homoj, kun kiuj mi rilatas rekte aŭ nerekte. Mi manĝas la rizon, kiun unu el miaj amikoj produktas. Mi aĉetas la rizon rekte de la amiko justkomerce. Li restis en mia domo, kiam li vizitis la urbon Moriguĉi, kiu estas mia hejmurbo.

⑫Mi esperas, ke ĉiuj homaj kunvivadaj interrilatoj estos egalecaj. Mi pensas, ke perfekta egaleco estas la idealo. Do mi celas fari la kunvivadajn interrilatojn pli egalaj,

⑥この生きものの共生において人間以外の生きものを、私は人間と区別し、そして差別しています。肉食主義者でさえ、生きものを殺したり傷つけたりせずに自分自身を養うことはできません。かれらは命のある野菜を食べます。言いかえれば、個々の人間と人間以外の生きものとの関係は平等にはなりません。人間が、他の生物のために可能な限り環境を保護または回復することによってその不平等をへらすことはできます。

⑦そのために、私たち人間は、あらゆる種類の生きものが少なくとも最小限の苦痛で存在し続けることができる環境を保護または生成する必要があります。たとえば、海、湖、川、土地、森林、空気の汚染や破壊を止めなければなりません。種間平等は、私が想像する生きものの共生の理想世界の核心的要素です。その理想に近づくには、戦争や武器の生産は、人や他の生きものの苦痛をへらすために終わらせなければなりません。

⑧私は、上の種類の生きものの共生の理想世界をめざす実践を「生きものの共生の実践」と呼んでいます。

2. 人間の共生

⑨斜字体の人間の共生は人と人との関係です。それは生きものの共生の一種で、人間にとって特別なタイプの共生です。人は人を食べたり殺したりせずに生きることができます。そして、人間社会において人が人を食べることは不道徳であるとされています。私はこのような人と人との相互関係をしめす言葉として斜字体の人間の共生を使っています。この人間の共生は、さまざまな同一種内の共生の一つです。たとえばサルはグループで共生します。サル同士の共生はサルにとって特別なタイプの共生です（当事者のサルがそれをどう見ているかは分かりませんが、私はそのように解釈しています）。ミツバチ、アリ、ライオンなどについても同じことが言えます。

⑩私は生きものの共生だけでなく、人間の共生も必要だと考えます。私は自分の娘たちに依存しています。彼女たちと一緒に食事をしたり、話したりするのが好きです。娘たちが私を父親として見、私を対等な相手としてつき合ってくれていて、彼女らとの幸せな時を楽しむことができます。彼女たちは今も、いくらかは私に依存しています。私たち（娘たちと私）、は相互依存しつつ人間の共生をかたちづくり生きています。

⑪同様に、私と私が直接的または間接的に関係しているさまざまな人との間にも人間の共生といえる相互関係があります。友人が作った米を私は食べています。フェアトレードでその友人から直接お米を買っています。私の住む守口市を彼が訪れたときには、我が家に泊まりました。

⑫すべての人間の共生の関係が平等になることを私は願っています。とはいえ完全な平等は理想であり、その実現は不可能です。そこで、さまざまな人と、いろんな仕方と共に暮

kunvivante kaj kunlaborante diversmaniere kun diversaj homoj. *Praktikado de homeca kunvivado* estas mia nomo por la praktikado de homoj, kiuj interrilatas reciproke kaj laboras por iom pli egaligi la *homecan kunvivadon* kaj helpi al homoj vivi bonajn vivojn.

⑬Kio estas *bona vivo de homo*? Ĝi estas vivo bona de homo, kiu vivas digne unue kiel unu homo kaj kiel egala kaj libera membro de la homaro, sed ne kiel privilegiulo, ekz. riĉulo, reĝo, ĉefministro, prezidento, mastro, forta viro ktp.¹

3. Interrilatoj

⑭Historie la homo ne estas la unusola vivaĵo, kiu aperis sur la terglobo. La *vivaĵa kunvivado* jam ekzistis, kiam la homo aperis. Konsekvence, la *homeca kunvivado* baziĝas sur la *vivaĵa kunvivado*. *Homeca kunvivado* estas nova aperinto en la mondo de *vivaĵa kunvivado*, kaj iusence homoj estis kaj estas invadantoj aŭ buĉistoj por la indiĝenaj vivaĵoj sur la terglobo. Vivaĵoj krom homoj mortigas aliajn vivaĵojn principe nur por manĝi ilin, memdefendo aŭ reprodukto, sed neniam por mono.

⑮Mi volas memori la supre diritan fakton kaj ne forgesi, ke mi vivas viktimitigante la vivojn de diversaj vivaĵoj. Laŭ japana kultura moro mi diras *itadakimasu* antaŭ manĝo. La vorto signifas, ke mi ricevas la manĝaĵon donacitan al mi de la naturo aŭ natura dio kun danko al la naturo kaj la homoj, kiuj helpas al mi havi manĝaĵojn ekz. agrikulturistoj, fiŝkaptistoj, kuiristoj ktp. Mi dependas de la interrilatado de vivaĵo kaj homo, kaj samtempe havas mian niĉon² en la interrilatada mondo.

⑯Sur fundamento de la kompreno kaj sento pri *kunvivado* kaj ĉiu vivaĵa vivo, kiun mi priskribis supre, mi deziras kontribui por integri praktikadon de *vivaĵa kunvivado* kaj praktikadon de *homeca kunvivado*.

⑰La supran specon de integra praktikado mi nomas praktikado por *universala kunvivado*.

4. Universala kunvivado

⑱Mi prezentos du ekzemplojn de *praktikado por universala kunvivado*.

4.1. Kunlaboro en la kamparo

⑲Mi laboras kiel volontulo en la parko Curumi-rjokuĉi de la urbo Osako. Pasintjare mi helpis kultivi rizon, terpomojn, indigoplantojn kaj lotusojn en la kamparo kune kun amikoj, kiuj havas la saman ideon kiel mi.

国際語エスペラント(E speranto)の特徴とエスペラントによる小論「生きものの共生と人間の共生」の対訳

らし、共に働きながら人間の共生の関係をより平等なものにすることをめざしています。そして人間の共生の関係をより平等にし、「人間の福祉」をささえるために、たがいにつながり、協働する実践のことを《人間の共生のための実践》と、私は名づけています。

⑬《人間の福祉¹》とは何か。それは、特権者として、たとえばお金持ち、支配者、首相、大統領、主人あるいは強い男などとしてではなく、ひとりの人間としての尊厳をもって、人類の一員として相互に平等かつ自由に生きる人間のよい暮らしのことです。

3. (二つのタイプの共生の) 相互関係

⑭歴史的に、地球上に現れた生き物は人間だけではありません。人が現れたとき、生きものの共生が地球上にすでに存在していました。人間の共生は生きものの共生の世界のなかに新たに出現したものであり、ある意味で、人間は地球上の先住者であるさまざまな生きものにとっては侵略者あるいは屠殺者です。人間以外の生きものは、他の種の生きものを殺すとすれば、それは原則として、食べるため、あるいは自分や子どもの身を守るため、はたまた生殖のためなどです。お金のために殺すことはありません。

⑮上に記した事実を肝に銘じ、自分がさまざまな生きものの命を犠牲にして生きていることを私は忘れずにいたい。日本の文化的慣習により、食事の前に「いただきます」と私は言います。この言葉は、私に食べ物を恵みあたえてくれる自然と自然の神、そしてその自然からの恵みである食べ物をとどけてくれた人びと、農民、漁師、料理人などへの感謝の気持ちの表現です。こうした 生きものの共生と人間の共生の関係に依存しつつ、同時に、その関係の世界の中に私は自分のニッチ²をもって生きています。

⑯以上のような共生と生きものの命についての理解と思いに基づいて、生きものの共生の実践と人間の共生の実践を統合する実践をしたいと私は願っています。

⑰上の種類の統合的実践を《普遍的共生のための実践》と私は名づけています。

4. 普遍的共生のための実践

⑱普遍的共生のための実践の例を2つ紹介します。

4.1. 畑での協働

⑲私は大阪市の鶴見緑地公園でボランティアとして活動しています。その緑地公園の畑で、ボランティア仲間と一緒に、ジャガイモ、藍、蓮などを育てています。

⑳Ni klopodas krei ekologian agrikulturon en la kamparo. Ekzemple, ni ne uzas pesticidojn. Ni celas konservi optimuman ekosistemon por vivaĵa kunvivado. Alivorte ni faras praktikadon de *vivaĵa kunvivado*.

㉑En decembro 2019 ni invitis infanojn kaj oficistojn de infana manĝejo al la kamparo. En la infana manĝejo infanoj povas manĝi senpage. Bedaŭrinde en Japanio konsiderinda nombro da infanoj ne povas manĝi sufiĉe pro malriĉeco. Por helpi ilin civitanoj fondis tiajn lokojn.

㉒Ni, volontuloj, helpis al la infanoj de la infana manĝejo elfosi lotusajn radikojn. La infanoj portis la radikojn al la infana manĝejo kaj manĝis ilin. Ni kunlaboris kun la infanoj kaj oficistoj en la kamparo kunvivante kun la diversaj vivaĵoj tie. Interrilatado de la homoj, kiuj kunlaboras en la kamparo, estas praktikado de *homeca kunvivado*. Ne estas ekonomia diskriminacio inter malriĉulo kaj riĉulo, kiam oni kune laboras en la kamparo. Tia partopreno estas senpaga kaj malfermita al ĉiuj civitanoj. La tuta procezo de homaj agoj rilataj al la kunlaboro en la kamparo estas unu el la procezoj de praktikadoj por *universala kunvivado*.

4.2. Komunikada programo

㉓En 2020 mi renkontis du mezlernejanojn de Fukuŝimo. La lernejanoj raportis pri *Komunikada Programo de Mezlernejanoj inter Fukuŝimo kaj Germanio*, en kunveno okazigita en Osako. La du lernejanoj vojaĝis al Germanio kiel membroj de japana mezlernejana grupo por komunikiĝi kun mezlernejanoj en Germanio, kaj lernis kune kun diversaj homoj partoprenante studajn vizitadojn tie. Ekzemple, ili vizitis la Berlinan Muron, ventopovan centralon, mezlernejon kaj tiel plu. En la lernejo ili lernis kun germanaj lernejanoj en la sama klasĉambro. Tie la japanaj mezlernejanoj parolis pri la problemoj de nukleaj centraloj kaj ankaŭ pri siaj spertoj en Fukuŝimo

㉔Ili restadis en la hejmoj de germanaj familioj dum la tagoj, kiam ili iradis al la lernejo. La lernejanoj de Japanio partoprenis kunvenon de Vendredo por Estonteco en la 9a de aŭgusto 2019 en Berlino.

㉕Vendredo por Estonteco estas socia movado lanĉita de Greta Ernman Thunberg kaj aliaj junuloj en Eŭropo por ĉesigi la detruon de la ekosistemo de la homaro. Thunberg estas juna sveda klimat-aktivulino, kiu ekde 2018 stimulas internacian movadon por batali kontraŭ klimata ŝanĝiĝo. Kun la simpla mesaĝo *Lerneja striko por klimato* skribita sur afiŝo, ŝi komencis preterlasi lecionojn vendrede kaj protesti ekstere de la Sveda Parlamento.

国際語エスペラント (E speranto) の特徴とエスペラントによる小論「生きものの共生と人間の共生」の対訳

⑳その畑での活動では有機農業の実践をめざしています。たとえば農薬は使用していません。共生に最適な生態系の維持をめざしています。それは共生の実践をしていることだとも言えます。

㉑2019年12月、私たちは子ども食堂の子どもたちと職員をその畑に招待しました。子ども食堂では子どもが無料で食事をすることができます。残念ながら、日本には貧困のために十分に食べることのできない子どもがかなりの数で存在します。その子どもたちを支援するために、市民が設立した場所が「子ども食堂」です。

㉒私たちボランティアはその子ども食堂の子どもたちや職員と畑で一緒にさまざまな生きものとの共生を実践しています。子どもたちがレンコン掘りをするのを手伝いました。子どもたちは掘ったレンコンを子ども食堂へ持ち帰って食べました。その畑での活動をとおして人と人とが交流することは人間の共生の実践です。その畑で一緒に働くことについては、貧しい人と金持ちの間の経済的な差別はありません。その参加は無料で、その機会はすべての市民に開かれています。畑での協働に関連する活動の全体が、普遍的共生のための実践のプロセスになっています。

4.2. 交流プログラム

㉓2020年に福島の高校生2人に会いました。その2人は、大阪で開催された集会で、福島とドイツの間の高校生交流プログラムについて報告しました。かれらは、日本の高校生グループの一員としてドイツの高校生と交流するためにドイツを訪れ、現地研修訪問に参加し、いろんな人と一緒に学びました。たとえばベルリンの壁、風力発電所、高校などを訪れ学びました。高校では、ドイツの高校生と同じ教室で一緒に勉強し、日本の高校生が原子力発電所の問題や福島での経験について話しました。

㉔高校に通学している期間、日本の高校生はドイツの家庭に滞在しました。そして2019年8月9日（金曜日）にベルリンで開催された「未来のための金曜日」の集會に参加しました。

㉕「未来のための金曜日」は、人類による生態系の破壊を阻止するために、グレッタ＝エルンマン＝トゥンベリーとヨーロッパの若者たちが立ち上げた社会運動です。トゥンベリーは、2018年以来、気候変動問題に取り組み闘う国際的運動を喚起したスウェーデンの若い環境活動家です。彼女は金曜日の学校の授業を欠席し、スウェーデン国会議事堂の外で、「気候のための学校ストライキ」という簡単なメッセージをのせたポスターを掲げての抗議をはじめました。

②⑥ Post la raporto en la kunveno de Osako, mi, la du mezlernejoj kaj kelkaj aliaj partoprenantoj kunmanĝis kaj kunparolis.

②⑦ Kiam la nuklea centralo de Fukuŝimo eksplodis, la lernejoj estis dujaruloj de elementaj lernejoj. Laŭ ili la tiamaj cirkonstancoj de la lernantoj de la elementaj lernejoj estis jenaj:

②⑧ Ĉiu lernanto devis kunporti aparaton por mezuri radioaktivecon ĉiam. Ili ne povis ludi aŭ sporti ekstere pro la radioaktiveco el la nuklea centralo. Regule la lernantoj havis ekzamenojn pri tiroida kancero, kiuj jam malkovris kelkajn okazojn de kancero. La du lernejoj ankoraŭ ne havas kanceron sed timas, ke ili havos ĝin en la estonteco. “Pro la nukleaj centraloj ni suferis kaj suferas tro grave. Mi ne povas pardoni la registarojn, kiuj ne fermas ĉiujn nukleajn centralojn. Se alia akcidento okazus en Japanio, Japanio mem finiĝus. Kial ili ankoraŭ povas aprobe nuklean centralon? Mi neniam povas akcepti iliajn kondutojn”, la du mezlernejoj diris.

②⑨ Mi pensas, ke partopreni aŭ helpi la praktikadon de Komunikada Programo de Mezlernejoj inter Fukuŝimo kaj Germanio estas praktikado de *universala kunvivado*. Per la praktikado ni povas kontribui al amika, egaleca, reciproka kaj interhoma rilatado inter Germanio kaj Japanio. Ni povas vidi ĝojajn esprimojn de la lernejoj kaj de aliaj partoprenantoj de la programo kaj iliajn kunvivadajn praktikadojn en la retejo de la neprofitita organizaĵo *Earth Walkers*.

Postparolo

③⑩ Koran dankon por via toleremo legi ĉi tiun artikolon. Propravole komunikiĝi aŭ dialogi esperante kun samideanoj por *bona vivo de la homo* estas praktikado de *homeca kunvivado*, ĉar neniu estas devigata uzi Esperanton per aŭtoritato, kaj Esperanto estas interpopole pli neŭtrale kaj egalece uzata ol la aliaj lingvoj. Mi esperas, ke la renkonto de vi kaj mi per Esperanto en ĉi tiu artikolo estas komenciĝo de nia, via kaj mia kunpraktikado por fari la mondon iom pli egaleca kaj ĝoja loko por diversaj homoj, popoloj kaj vivaĵoj, kiuj kunvivas.

¹ *Haŝimoto, Joŝirō (2012) Ningen no fukuŝi to bariafuri: „ĉigai ŭa suteki” ga atari mae ni naru jou ni, Aikauŝobo, p. 48-49.*

² *Niĉo estas areo aŭ pozicio, kiu estas ĝuste taŭga por malgranda grupo de la sama tipo.*

国際語エスペラント (E speranto) の特徴とエスペラントによる小論「生きものの共生と人間の共生」の対訳

②⑥大阪での集会の報告の後、私と高校生 2 人と他の参加者数名と一緒に食事をし、話をしました。

②⑦福島原子力発電所が爆発したとき、二人の高校生は小学 2 年生でした。かれらによると当時の小学生の状況は次のようなものでした。

②⑧児童は、放射能を測定するための装置を常に携帯する必要がありました。原子力発電所からの放射能のため、児童たちは外では遊ぶこともスポーツをすることもできませんでした。児童は定期的に甲状腺がんの検査を受け、すでに多くのがんの症例が発見されています。二人の高校生はまだがんを患っていませんが、将来がんになるのではないかと恐れています。「私たちは原子力発電所のせいでひどく苦しんでいます。原子力発電所をすべて停止すると決断しない政府を許すことはできません。日本で別の事故が起これば、日本自体が終わります。なぜかれらはまだ原子力発電所を承認しつづけることができるのでしょうか。かれらの行動を受け入れることはできません」と二人の高校生は言いました。

②⑨福島とドイツの高校生交流プログラムに参加したり、その実践を支援したりすることは、普遍的共生の実践だと思います。その実践によってドイツと日本の間の友好的で平等な人間と人間の相互関係づくりに貢献することができます。非営利団体アースウォーカーズのウェブサイトでは、交流プログラムの学生や他の参加者の喜びの表情や共生の実践を見ることができます。

あとがき

③⑩この小論を読む労をとっていただき、ありがとうございます。「人間の福祉」のためのエスペラントでのエスペランチストによる自発的なコミュニケーションや対話は、それ自体が人間の共生の実践です。なぜなら、その活動においてエスペラントを使うことを権力によって強制されたり、義務づけられたりすることがなく、そしてエスペラントが他の言語よりも中立的かつ平等に人びとのあいだで使用されているからです。この小論でのエスペラントによる私たち、あなたと私との出会いが、共に生きるさまざまな人、民族、そして生きものにとってこの世界をより平等で喜びにみちたところにするための共同の実践のはじまりになることを私は希望しています。

¹ 橋本義郎 (2012) 『「人間の福祉」とバリアフリー：《「ちがいが」は素敵》があたり前二なるように』相川書房、48-49 頁。

² 生物学の用語としてのニッチ(エスペラント語で *niĉo*)。その意味はあるタイプの生きもの小集団に丁度適した居場所のこと。

